

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

担当小委員会	第 5 9/6 1/1 1 6 小委員会
事務局	一般社団法人 日本冷凍空調工業会

## &lt;規格情報&gt;

規格番号（発行年）	JIS C 9335-2-89（20XX）
対応国際規格番号（版）	IEC 60335-2-89 Ed.3.0:2019
規格タイトル	家庭用及びこれに類する電気機器の安全性—第 2-89 部：業務用冷凍冷蔵機器の個別要求事項
適用範囲に含まれる主な電気用品名	ショーケース、業務用冷蔵庫及び業務用冷凍庫、カートイン冷蔵庫及びコールドロールボックス、サンドイッチテーブル及びホテルパン付冷蔵庫、ブラストチラー及びブラストフリーザ、業務用製氷機
廃止する基準及び有効期間	J60335-2-89（H20）、 3 年間

## &lt;審議中に問題となったこと&gt;

特になし

## &lt;主な国際規格との差異の概要とその理由&gt;

現在の別表第十二に採用されている技術基準とは相違する主なデビエーション。

項目番号	概 要	理 由
1	電池で運転する場合の電圧条件を追加	JIS C9335-1 の適用範囲における条件を示した
5.2	22.109 の試験を削除	IEC60335-2-89 原文が間違っていると思われる
5.7	亜熱帯クラス（ST）の試験条件（38℃±2℃）を追加	日本の気候条件を勘案した
5.10	22.106 の試験を追加。 22.109 の試験を削除	IEC60335-2-89 原文が間違っていると思われる
6.1	クラス 0 を認める機器を定格電圧が定格電圧が 150V 以下の可搬形のペルチェ素子利用の機器に限定	定格電圧が 150V 以下の可搬形のペルチェ素子利用機器をクラス 0 と規定した
6.101	ショーケース以外の機器の気候クラス SN, N, ST, T を追加	現状日本で運用しているクラスをデビエーションとして追加
7.1	ショーケース以外の機器の気候クラス SN, N, ST, T を追加	現状日本で運用しているクラスをデビエーションとして追加
7.12	廃棄の後に（リサイクル）を追加	現状日本で運用している方法をデビエーションとして追加
7.14	“ただし，“ノンフロン”の文字をラベルに表示し、ラベルの下地色を薄緑色又は同等色とした場合にはこの限りではない。”を追加	現状日本で運用している方法をデビエーションとして追加
11.8	ショーケース以外の機器の気候クラス SN, N, ST, T を追加	現状日本で運用しているクラスをデビエーションとして追加

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

項目番号	概 要	理 由
22.101	“E12”、“E17”、“E26” 追加	日本で一般的に使われているランプフォルダのタイプを追加
22.104	<p>“ただし、次のいずれかに適合すれば上記の要求は適用しない。</p> <p>-公称3mm以上の板厚で、次に規定する3.4Jの衝撃に耐えるもの。ガラスドア又はガラスパネルを通常取り付けられている状態にしている、枠及びガasketを取り付けたドア組立品又はガラスパネル単品を使用姿勢に保持してガラス面に対し垂直に、表面側から衝撃を加える。ドア組立品又はガラスパネル単品だけで試験する場合は、剛性がある壁にガasketを密着して実施する。</p> <p>衝撃は、直径<math>50 \pm 1</math>mmの鋼球をつるして、3.4Jの衝撃が得られる高さ、及び幾何学的中心から直径50mm以内で、ガラス面に垂直に加わるよう調整する。</p> <p>衝撃はスプリングハンマで加えてもよい。</p> <p>-上記3.4Jの衝撃に耐えなかった場合、次のいずれにも適合する場合。</p> <p>1) ガラスドア組立て、又はガラスパネルとして、直径が<math>75 \pm 0.5</math>mmの球の貫通を許さない。</p> <p>2) ガラス脱落片の最長寸法が75mmを超えない。</p> <p>“を追加</p>	<p>市場には、熱強化ガラス以外に、厚板硝子を使用して、十分な強度を確保しているもの、合わせガラスのように、樹脂フィルムによって、耐貫通性を向上させたものなど、多種存在する。熱強化ガラスだけに限定して現 IEC 規格は設計の自由度を過度に制限するもので、より自由度の高い規格にするため、上記デビエーションを付けた。</p> <p>3.4 J は UL471 (米国における業務用冷蔵庫、ショーケースの安全規格) で要求されている、ガラスに対する衝撃強度基準値と同じ値であり、機器に対する扱いや、体格の大きい米国人を考慮した基準値で、日本人を対象とする基準値であれば、もう少し低くてもよいかもしれないが同レベルとすることによって、より安全と考え、3.4 J を採用した。</p> <p>ショーケースで一般的に使用される複層ガラスでは、客側に面したガラスが割れても、庫内側に面したガラスがあり、身体の一部（手、腕など）が貫通さえしなければ大きな切傷には至らないと考える。また、合わせガラスの場合のように、ガラスが割れても落下しなければ、鋭利なガラス端面が露出する可能性は低いと考える。したがって、体 の 一 部 が貫通しないこと、割れても大きなガラス片が脱落しないことを盛り込むことによって、各種ガラスの選択の幅を広げ、なおかつ、安全性をキープするものとした。</p> <p>試験は使用状態を考慮して、実使用状態で試験し、割れたガラス片の寸法をチェックして、大きなガラス片が脱落する場合は不可とした。</p>
22.109	“ただし、ヒータ線部分が密閉されていないガラス管ヒータであって、附属書 CC に示す着火試験手順によって、定格電圧の 150%を印加したとき、使用する冷媒の化学的な濃度に設定した可燃性雰囲気において着火しない場合には、ガラス管ヒータの最外郭表面をその表面温度とする。”を追加	ガラス管ヒータの表面温度測定の定義を明確にした。
22.110	引き戸又は引きふたで囲まれたフリースペースをもつ機器においては、22.111の規定によらなければならない。を追加	日本国内で一般的に普及している引き戸を対象とした。
22.111	“ただし、扉若しくはふたを閉じたまま外側から見える場合は適用しない。を追加	引き戸も対象とするが、ガラス扉の場合は、内側から開けることができる要求は適用しない。
附属書 JAA (規定)	着火試験	日本国内で一般的に普及している可燃性冷媒を採用した冷蔵庫に組み込まれた霜取り用ガラス管ヒータの安全性について規定。 デビエーションの内容は変更していない。

## 電気用品安全法の技術基準の解釈 別表第十二に提案する規格の概要

### <主な改正点>

主な改正点は、次のとおりである。

- a) 箇条 1 の適用範囲の例示を追加した。また、注記 105 を削除した。
- b) 箇条 2 の引用規格を一部変更、及び削除した。
- c) 箇条 3 の用語及び定義に超臨界冷凍システムの追加に伴う用語及び定義を追加した。(3.107) (3.108) (3.109) (3.110) (3.111)
- c) 箇条 5 の IS C 9335-2-89 に適合しない電動圧縮機の試験を追加 (5.2)、試験周囲温度クラスの変更、及び、日本の気候条件をデビエーションとして追加 (5.7)、外付け冷却ユニットまたは外付け電動圧縮機を組み込んだ機器、及び超臨界冷凍システムを使用した機器の設置方法を追加した。(5.10)
- d) 箇条 6 の分類でペルチェ素子を有する機器の取扱いの規定を追加 (6.1)、また、日本の気候条件をデビエーションとして追加した。(6.101)
- e) 箇条 7 の表示及び取扱説明で、気候クラスの変更、超臨界冷凍システムの表示規定を追加、及び、日本の気候条件をデビエーションとして追加した。(7.1) (7.12.1) また、図記号の変更 (7.6)、取扱説明書への記載事項 (7.12)、可燃性断熱発泡ガスの表示高さ規定、及びそれに替わる日本で運用されている方法をデビエーションとして追加した。(7.14) また、“火災のおそれ”記号の表示規定を追加した。(7.15)
- f) 箇条 8 の充電部への近接に対する保護で、試験基準を一部削除した。(8.1.1)
- g) 箇条 11 の温度上昇で、気候クラス 0、6、7 及び 8 を追加した。(11.8) また、JIS C 9335-2-89 に適合しない電動圧縮機の温度測定に関する要求事項を追加した。(11.8)
- h) 箇条 19 の異常運転で、試験の判定方法を追加した。(19.1)
- i) 箇条 20 の安定性及び機械的危険で、要求項目を追加した。(20.1)
- j) 箇条 21 の機械的強度で、飲料を陳列又は保存するための機器の棚の要求項目を追加した。(21.102)
- k) 箇条 22 の構造で超臨界冷凍システムを用いる機器の要求項目を追加 (22.103)、可触ガラスパネルの要求項目及び試験方法を追加 (22.104)、漏洩した場合の冷媒濃度測定対象外の要件 (22.106.1) 通常の運転又は異常な運転の間アーク又は火花が生じる、どのような電気部品の要求項目を追加 (22.107)、冷媒滞留の要求項目を追加した。(22.108) また、冷媒の可燃性パラメータを変更した。(22.109)、引き戸の場合の試験方法を追加 (22.111)、可燃性冷媒を使うセパレート型機器の要求項目を追加した。(22.114)
- l) 箇条 23 の内部配線で内部配線の屈曲試験を追加した。(23.3)
- m) 箇条 24 の部品で超臨界冷凍サイクルの部品に関する要求項目を追加した。(24.1.4) (24.101) また、カップリングナットの試験温度条件を追加した。(24.7)
- n) 附属書 P、附属書 BB を追加した。

## 技術基準との整合確認書

<技術基準省令への整合性>

技術基準			該当	規格		補足
条	タイトル	条文		項目番号	規定タイトル・概要	
第二 条 第1 項	安全原則	電気用品は、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないよう設計されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 4	4 一般要求事項 機器は、通常使用時に起こりやすい不注意があっても、人体及び／又は周囲に危害をもたらさないように安全に機能する構造でなければならない。 注記 101. に可燃性冷媒に関する記載追加	
第二 条 第2 項	安全原則	電気用品は、当該電気用品の安全性を確保するために、形状が正しく設計され、組立てが良好で、かつ、動作が円滑であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 22	22 構造 構造に関する規定全般。 22.101 ランプホルダの固定に関する要件。 22.102 断熱材内部の絶縁ヒータ線及びその接続部の水の浸入に対する保護。 22.103 超臨界（transcritical）冷凍システムを用いる機器に圧力緩和装置を備える。 22.104 ガラスパネルの要件。 22.105 可燃性冷媒の冷媒量の上限。 22.106 可燃性冷媒漏えい時の、火災又は爆発の危険の防止。 22.107 可燃性冷媒を用いた圧縮式機器の火災又は爆発の危険の防止。 22.108 可燃性冷媒を用いる圧縮式機器の冷媒の漏洩滞留時の、火災又は爆発の危険の防止。 22.109 漏えいした可燃性冷媒にさらされるものの表面の温度の規定。 22.110 引き戸又は引きぶたで囲まれたフリースペースをもつ機器の視認性。	

## 技術基準との整合確認書

					<p>22.111 フリースペースをもつ機器の安全性。</p> <p>22.112 フリースペースを禁止する構造。</p> <p>22.113 フリースペースをもつ引出しの要件。</p> <p>22.114 事前に冷媒充填された接続例愛配管の使用を禁止する構造。</p>	
第 三 条 第 1 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前条の原則を踏まえ、危険な状態の発生を防止するとともに、発生時における被害を軽減する安全機能を有するよう設計されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 19	<p>19 異常運転</p> <p>機器は、異常運転又は不注意運転によって、火災の危険、及び安全性又は感電に対する保護に影響を及ぼす機械的損傷を、できるだけ未然に防止できる構造でなければならない。</p> <p>19.101 電熱装置の形状・設置。</p> <p>19.102 異常運転時の、火災又は火傷、傷害及び感電の防止構造。</p> <p>19.103 照明装置の危機防止。</p>	
第 三 条 第 2 項	安全機能を有する設計等	電気用品は、前項の規定による措置のみによってはその安全性の確保が困難であると認められるときは、当該電気用品の安全性を確保するために必要な情報及び使用上の注意について、当該電気用品又はこれに付属する取扱説明書等への表示又は記載がされるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 7	<p>7 表示及び取扱説明又は据付説明</p> <p>7.1 表示の規定</p> <p>以下 7.2～7.11 で機器に必要な表示を規定</p> <p>7.12 取扱説明書の備え付け。</p>	
第四条	供用期間中における安全機能の維持	電気用品は、当該電気用品に通常想定される供用期間中、安全機能が維持される構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	19..11 19.12 24.1.3 24.1.4 24.1.8 25.14 箇条 28	<p>19.11 電子回路の故障</p> <p>19.12 ヒューズの特性</p> <p>24.1.3 スイッチの耐久性</p> <p>24.1.4 自動調節器・装置の耐久性</p> <p>24.1.8 温度ヒューズの規定</p> <p>25.14 電源コードの折り曲げ耐久</p> <p>28 ねじ及び接続</p>	

## 技術基準との整合確認書

第五条	使用者及び使用場所を考慮した安全設計	電気用品は、想定される使用者及び使用される場所を考慮し、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 1 箇条 6 7.12 箇条 15 7.1 7.	1 適用範囲 この規格では、住宅の中及び周囲で、機器に起因して人が遭遇する共通的な危険性を可能な限り取り扱う。ただし、この規格では、通常、次の状態については規定していない。 — 次のような人（子供を含む）が監視又は指示のない状態で機器を安全に用いることができない場合 ・ 肉体的、知覚的又は知的能力の低下している人 ・ 経験及び知識の欠如している人 — 子供が機器で遊ぶ場合 6 分類 6.1 感電保護クラス 6.2 水に対する保護等級 6.101 ショーケース以外の機器の気候クラス。 広域温帯クラス(SN)の機器 温帯クラス(N)の機器 亜熱帯クラス(ST)の機器 熱帯クラス(T)の機器 7.12 取扱説明 取扱説明書には、次の要旨を記載しなければならない。 この機器は、安全に責任を負う人の監視又は指示がない限り、補助を必要とする人（子供を含む）が単独で機器を用いることを意図していない。 この機器で遊ぶことがないように、子供を監視することが望ましい。 15 耐湿性等 15.101 液体の漏出による電気絶縁物の劣化防止構造。	
-----	--------------------	--	--	--	--	--

## 技術基準との整合確認書

第六条	耐熱性等を有する部品及び材料の使用	電気用品には、当該電気用品に通常想定される使用環境に応じた適切な耐熱性、絶縁性等を有する部品及び材料が使用されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 24 箇条 30	24 部品 部品は、合理的に適用できる限り、関連する JIS に規定する安全性に関する要求事項に適合しなければならない。 30.1 耐熱性	
第七 条 第 1 項	感電に対する保護	電気用品には、使用場所の状況及び電圧に応じ、感電のおそれがないように、次に掲げる措置が講じられるものとする。 一 危険な充電部への人の接触を防ぐとともに、必要に応じて、接近に対しても適切に保護すること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 8 13.3 16.3 22.5 箇条 23 箇条 27	8 充電分への接近に対する保護 13.3 運転中の耐電圧 16.3 耐湿性試験（15）後の耐電圧 22.5 充電されたコンデンサによる感電危険の防止 23 内部配線 27 接地接続の手段	
第七 条 第 2 項	感電に対する保護	二 接触電流は、人体に影響を及ぼさないように抑制されていること。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	13.2 16.2	13.2 運転中の漏えい電流 16.2 耐湿性試験（15）後の漏えい電流	
第八条	絶縁性能の保持	電気用品は、通常の使用状態において受けるおそれがある内外からの作用を考慮し、かつ、使用場所の状況に応じ、絶縁性能が保たれるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11 箇条 14 箇条 15 箇条 26 箇条 29	11 温度上昇 14 過渡過電圧 15 耐湿性 15.101 液体の漏出により電気絶縁物に影響を及ぼさない構造。 26 外部導体用端子 29 空間距離、沿面距離及び固体絶縁	
第九条	火災の危険源からの保護	電気用品には、発火によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、発火する温度に達しない構造の採用、難燃性の部品及び材料の使用その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11 箇条 17 箇条 19 箇条 22 30.2	11 温度上昇 11.101 機器の試験温度の規定。 11.102 霜取装置の著しい温度上昇の防止。 11.103 霜取装置以外の電熱装置の著しい温度上昇の防止。 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護 19 異常運転	



## 技術基準との整合確認書

					<p>22.106 可燃性冷媒漏えい時の、火災又は爆発の危険の防止。</p> <p>22.107 可燃性冷媒を用いた圧縮式機器の火災又は爆発の危険の防止。</p> <p>22.108 可燃性冷媒を用いる圧縮式機器の冷媒の漏洩滞留時の、火災又は爆発の危険の防止。</p> <p>22.109 漏えいした可燃性冷媒にさらされるものの表面の温度の規定。</p> <p>30.2 耐着火性及び耐延焼性</p>	
第十条	火傷の防止	電気用品には、通常の使用状態において、人体に危害を及ぼすおそれがある温度とならないこと、発熱部が容易に露出しないこと等の火傷を防止するための設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 11	<p>11 温度上昇</p> <p>11.101 機器の試験温度の規定。</p> <p>11.102 霜取装置の著しい温度上昇の防止。</p> <p>11.103 霜取装置以外の電熱装置の著しい温度上昇の防止。</p>	
第十一条第1項	機械的危険源による危害の防止	電気用品には、それ自体が有する不安定性による転倒、可動部又は鋭利な角への接触等によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、適切な設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 20 22.14	<p>20 安定性及び機械的危険</p> <p>22.14 機器には機器の機能上必要でない限り、通常使用時又は使用者による保守の際に危険を及ぼすおそれがある凹凸のある角又は鋭い角があつてはならない。</p>	
第十一条第2項	機械的危険源による危害の防止	2 電気用品には、通常起こり得る外部からの機械的作用によって生じる危険源によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように、必要な強度を持つ設計その他の措置が講じられるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 21 22.11	<p>21 機械的強度</p> <p>21.101 ランプの機械的衝撃に対する保護。</p> <p>21.102 機器の棚の機械的強度の規定。</p> <p>22.11 充電部、湿気又は運動部への接触に対する保護のための着脱できない部分は確実な取付け及び通常使用時に生じる機械的応力に耐えなければならない。</p>	
第十二条	化学的危険源による危害又は損傷の防止	電気用品は、当該電気用品に含まれる化学物質が流出し、又は溶出することにより、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	19.13 22.22 22.23	<p>19.13 異常試験の判定</p> <p>試験中に、炎、溶融金属、<u>危険な量の有毒性</u>又は可燃性ガスが機器から漏れず、かつ、温度上昇は表9に</p>	



## 技術基準との整合確認書

				22.41 箇条 31 箇条 32	規定する値を超えてはならない。 22.22 アスベスト使用の禁止 22.23 ポリ塩化ビフェニル（PCB）を含んだ油の使用禁止 22.41 ランプを除き、水銀を含む部品の禁止 22.106 可燃性冷媒漏えい時の、火災又は爆発の危険の防止。 22.107 可燃性冷媒を用いた圧縮式機器の火災又は爆発の危険の防止。 31 耐腐食性 32 放射線、毒性その他これに類する危険性	
第 十 三 条	電気用品から発せられる電磁波による危害の防止	電気用品は、人体に危害を及ぼすおそれのある電磁波が、外部に発生しないように措置されているものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	箇条 32	32 放射線、毒性その他これに類する危険性（個別で規定）	
第 十 四 条	使用方法を考慮した安全設計	電気用品は、当該電気用品に通常想定される無監視状態での運転においても、人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないように設計され、及び必要に応じて適切な表示をされているものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	19.7 22.49～22.51 30.2.3	19.7 モータ拘束試験 人がついていない機器は、定常状態に達するまで試験を実施する。 22.49～22.51 遠隔操作に対する規定 30.2.3 人の注意が行き届かないで動作する機器の耐火性試験	
第 十 五 条第1項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	19.1	19.1 異常運転又は不注意運転に対する機械的損傷の未然に防止構造。	
第 十 五 条第2項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、動作が中断し、又は停止したときは、再始動によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	20.2	20.2 機器的危険 自己復帰形温度過昇防止装置及び過負荷保護装置が何かの拍子に閉状態になった場合に、それが危険を引き起こす引き金となってはならない。	

## 技術基準との整合確認書

				22.10	22.10 非自己復帰形制御装置の復帰ボタンは、偶発的な復帰が危険を招く場合、それが起こりにくい位置に取り付け得るか、又は保護する。	
第十五条第3項	始動、再始動及び停止による危害の防止	電気用品は、不意な動作の停止によって人体に危害を及ぼし、又は物件に損傷を与えるおそれがないものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 4	4 一般要求事項 機器は、通常使用時に起こりやすい不注意があっても、人体及び／又は周囲に危害をもたらさないように安全に機能する構造でなければならない。	原則として機器の停止状態を安全状態としているが、一般原則に基づき不意の停止が危険となる場合は、個別で規定される。
第十六条	保護協調及び組合せ	電気用品は、当該電気用品を接続する配電系統や組み合わせる他の電気用品を考慮し、異常な電流に対する安全装置が確実に作動するよう安全装置の作動特性を設定するとともに、安全装置が作動するまでの間、回路が異常な電流に耐えることができるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条 10 箇条 17 19.12 箇条 25	10 入力及び電流 10.101 霜取装置の入力。 17 変圧器及びその関連回路の過負荷保護 19.12 ヒューズの特性 25 電源接続及び外部可とうコード	
第十七条	電磁的妨害に対する耐性	電気用品は、電氣的、磁氣的又は電磁的妨害により、安全機能に障害が生じることを防止する構造であるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	19.11.4	19.11.4 イミューニティ試験	
第十八条	雑音の強さ	電気用品は、通常の使用状態において、放送受信及び電気通信の機能に障害を及ぼす雑音を発生するおそれがないものとする。	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	この規格では規定しない	家電機器に対する雑音の強さは、J55014 等の別規格で規定されて

## 技術基準との整合確認書

						いる。
第十九条	表示等（一般）	電気用品は、安全上必要な情報及び使用上の注意（家庭用品品質表示法（昭和三十七年法律第百四号）によるものを除く。）を、見やすい箇所に容易に消えない方法で表示されるものとする。	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	箇条7 7.14	7 表示 7.14 表示の消えにくさ	
第二十条第1項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	次の各号に掲げる製品の表示は、前条の規定によるほか、当該各号に定めるところによる。 一 扇風機及び換気扇（産業用のもの又は電気乾燥機（電熱装置を有する浴室用のものに限り、毛髪乾燥機を除く。）の機能を兼ねる換気扇を除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年 (ロ) 設計上の標準使用期間（消費生活用製品安全法（昭和四十八年法律第三十一号）第三十二条の三第一項第一号に規定する設計標準使用期間をいう。以下同じ。） (ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	この規格では規定しない	長期使用製品安全表示制度については、省令で明確に規定されているため、整合規格は不要。
第二十条第2項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	二 電気冷房機（産業用のものを除く。） 機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。 (イ) 製造年	<input type="checkbox"/> 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当	—	同上	同上

## 技術基準との整合確認書

		<p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>				
第二十条第3項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	<p>三 電気洗濯機（産業用のもの及び乾燥装置を有するものを除く。）及び電気脱水機（電気洗濯機と一体となっているものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<p><input type="checkbox"/>該当</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>非該当</p>	—	同上	同上
第二十条第4項	表示（長期使用製品安全表示制度による表示）	<p>四 テレビジョン受信機（ブラウン管のものに限り、産業用のものを除く。）機器本体の見やすい箇所に、明瞭に判読でき、かつ、容易に消えない方法で、次に掲げる事項を表示すること。</p> <p>(イ) 製造年</p> <p>(ロ) 設計上の標準使用期間</p> <p>(ハ) 設計上の標準使用期間を超えて使用すると、経年劣化による発火、けが等の事故に至るおそれがある旨</p>	<p><input type="checkbox"/>該当</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>非該当</p>	—	同上	同上

